



# 中山間地域に適した「丹波黒の栽培」

JA グループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田 孝志

## 【はじめに】

丹波黒は晩生の黒大豆で、食味が良く人気のある食材です。

県内では紀の川市の鞆渕での栽培が多く、地域の特産品目となっています。比較的冷涼な気候をこのむため、中山間地域に適した品目と言えます。

エダマメと乾燥した黒豆が収穫できる丹波黒の栽培について簡単に紹介したいと思います。

- ◆10月：美味しい「エダマメ」を収穫
- ◆11～12月：お正月用の「黒豆」を収穫

## 【栽培の適地】

先に紹介したように丹波黒は比較的冷涼な気候を好みます。暑い地域で栽培すると、葉ばかり大きくなって実が全く付かないことがあります。

丹波黒は8月に小さな花を咲かせますが、この時期に高温乾燥が続くと花が落花し、葉ばかりになります。また、樹勢が強すぎる場合も落花しやすくなります。

このため、暖地で栽培する場合は①種まき時期を遅らせて樹勢を調整する、②開花時期にかん水を行って、落花を少なくするなどの対策が必要となります。

今回は気候の冷涼な中山間地域での栽培を中心に説明します。

### ●丹波黒の栽培

地域区分	6	7	8	9	10	11	12
中山間地	○	▲	—	—	—	■	■
暖地	○	▲	—	—	—	■	■

○播種 ▲定植 ■収穫（黒豆）

## 【育苗】

丹波黒は直播きでも栽培できますが、発芽不良による欠株が発生しやすいので、苗を定植の方が適しています。

中山間地域では6月上中旬に播種します。128穴のセルトレーを準備して1粒ずつ播種した後、覆土を行います。播種後10～14日、本葉が1枚でたころに定植します。10a当たり1500株程度の苗が必要となります。



【写真：発芽始めの苗】

## 【定植】

排水の良い圃場に石灰資材を施用した後、元肥として窒素成分3kg/10aを施用し、幅120cmの畝を立てます。窒素過多にならないよう注意します。丹波黒は株が大きくなるので、株間は50～60cmで1条植えとします。定植後は丁寧にかん水を行い、活着を促進します。

施肥の例（10アール当たり）

	N : P : K	備考
元肥	3 : 3 : 3	石灰資材（苦土セルカ）
追肥	3 : 6 : 6	追肥＋土寄せ

## 【栽培管理】

### 〈7月〉

株が大きくなってきた後、株元に追肥をします。その後、土寄せを行って、生育を促進するとともに倒伏の軽減を図ります。

### 〈8月〉

丹波黒は草丈が1 m近くになるため、強風で倒伏することがあります。そのため、株の両サイドに紐を一段張って倒れないように管理します。

8月中下旬になると小さな花が咲きます。このころ土壌が乾燥すると花が落ちてしまい、実の付が悪くなります。晴天日が7日以上続いた場合はしっかりと灌水を行うようにします。

## 【病害虫防除】

病気の発生はあまり多くありませんが、害虫には注意が必要です。特に開花後は定期的に防除を行って、実の食害を防止するようにします。

### 〈主な病害虫防除〉

#### ○6月下旬（定植時）

##### ネキリムシ類

ダイアジノン粒剤 5 6kg/10a

#### ○7月中下旬

##### べと病、茎疫病、ハスモンヨトウ

ランマンフロアブル 1000 倍

トレボン乳剤 1000 倍

#### ○8月下旬

##### ハスモンヨトウ、カメムシ類

フェニックス顆粒水和剤 2000 倍

スタークル顆粒水溶剤 2000 倍

#### ○9月～10月

##### ハスモンヨトウ、カメムシ類、紫斑病

プレバゾンフロアブル 4000 倍

キラップフロアブル 2000 倍

ゲッター水和剤 1500 倍

※容器に記載された登録内容を確認して下さい。

## 【エダマメの収穫】

10月中旬になるとエダマメとして収穫ができます。丹波黒のエダマメは大粒で食味が良いので人気があります。収穫適期は1週間程度です。



【写真：エダマメの収穫期】

## 【黒豆の収穫】

11月下旬になり、葉と実が黄化した後に収穫します。株元から切り取った株を天日で十分乾燥させます。収穫時の豆は赤茶色をしていますが、乾燥させると黒色の美しい色になります。乾燥が不十分な場合は品質が低下しやすくなるとともに、貯蔵性も悪くなるので注意します。大粒で食味が良く人気のある丹波黒の栽培に取り組んではどうでしょうか。



## 【栽培のポイント】

- 気候の冷涼な「中山間地域」が適地
- 夏の高温乾燥時はしっかりと「灌水」
- 開花後は「害虫防除」を徹底